

令和元年11月12日  
(2019年)

保護者の皆さま

吹田市立佐竹台小学校  
校長 西岡 孝

## 平成31年（令和元年）度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度4月に、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数に関する調査
- ◆児童質問紙調査 生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

### 2. 調査結果の概要と課題

#### ◆調査結果の概要

国語 全国値を上回っている  
算数 全国値を上回っている

#### ◆正答率の低い問題から見える課題について

誤答から、課題を明らかにするために、正答率の低かった問題についての課題について取り上げました。

	領域	正答率の低い問題から見える課題
国語	書くこと	・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
	伝統的な言語文化と国語の特質	・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 ・文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。 ・漢字を文の中で正しく使う。

	領域	正答率の低い問題から見える課題
算数	数と計算	・示された計算の仕方を解釈し、減法場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する。
	量と測定	・示された図形の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する。 ・示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断する。
	図形	・図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成する。
	数量関係	・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、適用する。 ・加法と乗法の混合した整数と少数の計算をする。

### 3. 教科に関する分析と今後に向けて

#### 国語

本校の平均正答率は全国値を上回っている。4領域すべてにおいて良好な結果でした。

しかし、言語についての知識・理解・技能や記述式に課題が見られました。

- ① 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にする」ためには、段落の要旨をとらえて、必要な情報を把握したり、登場人物の考えを要約したりする等の学習や、全体の構成を把握しながら「読むこと」を大切に指導していきます。
- ② 「書くこと」については、文の構成や接続語の役割を理解し「伝えたいことを条件に合わせて書く」ことができるよう指導していきます。
- ③ 「話すこと・聞くこと」については、国語科のみならず全教科に必要な力であるため、今後も学年に応じて指導のポイントを明確にしながら取り組み、力をつけていきます。

#### 算数

本校の平均正答率は全国値を上回っている。図形領域は全国値とほぼ同じで、その他の3領域においては全国値を上回り良好な結果でした。

今回の結果を受け、図形の性質などに着目して考察し、具体物の操作等で見方や感覚を豊かにするように指導していきます。また、記述式問題を解くことに課題があり、全体的な継続課題として、

- 1 算数用語の意味を理解すること
- 2 数量関係に着目して考察すること
- 3 言葉や式を用いて簡潔・明瞭・的確に説明すること
- 4 グラフや表を的確に読み取り、根拠をもって論理的に話すこと

があげられます。

- ① 答えを導くためには、式だけでなく、題意を理解するために図や絵を用いたり、式や図で表したものを言葉でまとめたりする活動をさらに取り入れていきます。また、式から考えを読み解く活動や図で表されたものから式を立てる活動など、図・式・言葉を自由に使いこなせるようにしていきます。

②算数用語を適切に用いながら発表したり、ペア学習を効果的に取り入れたりすることで、全員が自分の考えを伝える時間を確保できるようにしていきます。  
 今後の授業の中で、①「考えを書く」取り組み、および②「考えを伝える」取り組みを、引き続き進めていきます。

児童質問紙からは、「算数は好きですか」という質問に対し肯定的な回答は6割ですが、算数の勉強は大切であり将来社会に出たときに役立つとも思っている。また、解き方がわからない時は、あきらめずに様々な方法で考えるようとし、算数の授業はわかりやすく、新しい問題に出合った時は「解いてみたい」と思う子どもの姿がみえました。

#### 4. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向と今後に向けて

自分自身の こと	自己肯定感 自己有用感 将来の夢	「自分にはよいところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」については全国値を上回り、「将来の夢や目標を持っていますか」については、全国値とほぼ同じで、自己肯定感・自己有用感をしっかり持ち、将来に向けて夢や希望を持つ姿が見られました。
家庭生活 学校生活	生活習慣	「起床時間・就寝時間ともに決まっていない」という児童が、全国値を上回っていました。
	家庭学習	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、全国値を下回りましたが、7割の児童が「学校の授業以外にどれくらいの時間勉強しているか」に対し、7割の児童が「1時間以上勉強をする」と回答していました。本校では、家庭学習の手引きを作成し「家庭学習の習慣や方法を身に付けた子ども」「生活時間の有効な使い方を身に付けた子ども」の育成をめざしています。引き続き、家庭と連携しながら取り組みを進めていきます。
	読書	「読書は好きですか」に対し、8割の児童が「好き」と答え、「昼休みや放課後、学校が休みの日に学校の図書室や地域の図書館に月に3回程度行く」児童が5割以上で、全国値を上回っていました。
	主体的・対話的 で深い学び の視点から	「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」はいずれも全国値とほぼ同じでした。引き続き子ども達が自ら取り組める授業を目指します。
情報に関して	地域・社会 新聞・ニュース	「今住んでいる地域の行事に参加している」と6割の児童が答え、「地域や社会をよくするためになにをすべきかを考えることがある」と5割の児童が答えています。全国値を上回っているものの、「ほぼ毎日」、「週に1～3回程度」、「月に1～3回」を合わせて4割の児童が「新聞を読んでいる」と答えており、全国値を上回っています。

## 5. 今後の取り組みについて

吹田市教育委員会では本調査を踏まえ、「学力向上のための主要な視点」として

- ①9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- ②授業規律・生活規律の確立
- ③習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導
- ④自学自習力の育成

を掲げています。

本校におきましても、これらの視点を大切にして、学力向上の取り組みを推進していきます。

特に学習面においては、「子ども達が『考えたい』『伝えたい』と思える」そしてなにより「子ども達が『わかった!』といえる」授業づくりをめざし、児童の「主体的に学ぶ態度の育成」に力を注いでいきます。また、生活面では、自己肯定感・自己有用感をさらに高め、社会的課題に対する規範意識を持ち、生活の中で生かしていく力の育成に取り組んでいきます。

ご家庭でも、家庭学習の習慣をはじめ規則正しい生活習慣の確立、地域行事への参加など、児童の自立と自学自習力向上のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

学校・家庭・地域が、手を携えて子どもたちの確かな学力の育成をしていけますように今後とも、学校の取り組みに、ご協力・ご理解をお願いいたします。